
Angel Code

今宮いたる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Angel Code

【Nコード】

N7229X

【作者名】

今宮いたる

【あらすじ】

中里翔がトリップしたのはドラゴンが空を飛び回る異世界だった！？ 貧乏学生の中里翔は突如モンフォール家皇女、ソフィーにパートナーとして異世界に召喚されてしまい…？ 超能力異能バトルあり、ヒロイン弱めの主人公なかなか強い系です。

強制召喚！

隙間風が入るドアを開け、電気のスイッチを押した。

「……あれ？」

部屋は暗いまま。何度も押すが、何も変わらない。

中里翔は再び絶望する。

ついこの前ガスを止められたばかりなのに、こんな早さで電気まで止められるなど思いもしなかった。

「はぁ」とひとつため息を付き、何も置いていない居間に腰を下ろす。畳はもう畳といえるのかどうか怪しいほどに劣化し、いくら掃除しても埃っぽい部屋に咳が出る。

中里翔はとても貧しい。見るからにボロボロのアパートの狭い一室に住む彼は、高校2年生でありながら毎日アルバイトをして生計を立てている。彼の親は彼が超巨額の借金を残して蒸発。生きているのか死んでいるのかも分からない。そのとんでもない親が残した借金を返すべく青春のすべてを削って、いや青春どころか人生のすべてを削って返済に苦心している。

彼はおもむろに立ち上がり、洗面所へ向かう。

錆びついた蛇口をひねり、手を差し出す。

「……」

何も出ない。

「……」

彼は無言で元いた場所に戻り、「もー！」と声を上げて仰向けに寝転ぶ。いや、寝転ぶと言うより、倒れこむと表現したほうが近いかもしれない。

水も止められていたのだ。

「なんで俺はすっかりこんな目に……」などと思ってもしょうがないことは彼が重々に承知しているので、そんなことは嘆かない。中学生の時もずっと働き詰めだった。雇ってくれていた店主も彼の見掛

けで高校生ではないことに気づいていたが、「人には言えない事情があるのだろう」と、温情により内密で働かせてもらっていた。このように、こんな生活をしているのはついこの前からのことなどと言っわけではない。もうずっとこうなのだ。どう足掻いても抜け出せることなんてできないということなど、まだ子供心の残るこの当時から分かっていた。腹の底から理解していた。理解というより使命だと思ふ感情の方が強かったかもしれない。そうでもしないと、こんな理不尽な環境に投げ出された自分自身を、彼自身がフォローしきれなかったのだ。

一言で言ってしまうえば、彼の中にあるものは『諦観』の文字だけだった。

この世の全てへの諦観。自分を救ってくれる人も、自分を愛してくれる人もさえもない。否定したいが、現実が彼をがんじがらめにして絡めとってしまう。

今日も働き詰めで帰宅した彼だが、居間に倒れこんだままそれ以上ピクリとも動こうとしない。ご飯も、なけなしの1000円で購入したパンを昼ごはんに食べただけでそれ以外は何も口にしていない。そもそも、この家に冷蔵庫などないので食料を保管する所などないのであるが。

彼はそのまま深い眠りへとついてしまった。

雀の囀りが聞こえる。

昨夜の制服姿のままの翔はその清々しい朝のお告げで目が覚める。時計は腕時計しか持っていないので、眠気の残る眼を右手でこすりながら左腕手首にはめているそれを確認する。

時刻は8時20分。

思わず「うげえっ」と悲鳴にも似た声を漏らしてしまう。ただで

さえ困窮している生活の中で必死に学費を捻出している彼は遅刻などという勿体無いマネはできない。何より次の奨学金に大きく響いてしまうので、無遅刻無欠席全出席の皆勤賞はどうしてもゲットしておきたい肩書きだ。

「うわああ」という情けない声を上げながら急いで用意をする。と言っても、制服は既に着用済みであるので、カバンに時間割を合わせて教科書をつつ込むだけで用意は完了した。そしてその重いカバンを引っ提げて勢い良く玄関の扉を開いて猛ダッシュ。自宅から学校までは歩いて約25分。全力で走っても8時半から始まる朝の会には間に合わない。

彼は全力で走った。なりふり構わず走った。自分の人生を賭ける勢いで走った。まるでオリンピック決勝の舞台で疾走するランナーであるかのように、走ることにのみ集中していた。

彼の目の前に広がるのは道。

高速で視界を流れる道、道、道。

半身をかがめて全力で走る彼は、前を向く余裕なんて一切なかった。

だから。

だから気付くはずもないのだ。

大通りに面した交差点が赤信号だったことなど、彼の視界に及ぶ訳がないのだ。

もちろん、全速力で赤信号をぶつちぎる青年に大型トラックのブレーキが間に合うはずもない。

翔にそれを気付かせたのは、金属を引き千切ったかのように耳を劈くブレーキ音だった。

「あ、これはダメなやつだ」と一瞬で判断する。周囲から聞こえる

悲鳴。恐らく通行人の人たちが今眼の前で轢かれようとしている一人の青年にもたらされる悲劇に悲嘆する声だろう。

目の前に迫り来る巨大な鉄の塊。運転席の窓からは必死にブレーキを踏むおじさんの姿が見える。

——走馬灯が流れる。

彼の幼い頃の記憶。

ずっと施設に預けられっぱなしで、親が引き取ったかと思えば口々に育てるわけでもなく。絵本数冊と適当なおもちゃで遊んだことしか記憶にない幼少期。誰も来てくれなかった参観日と運動会。教科書しか読むものがなかったから、一日中それを読みふけていた中学生時代。それでも中里翔は親に振り向いて欲しくて必死で勉強した。なぜ勉強なのか——彼にはそれしか思いつかなかったからだ。勉強するのはタダ。お金がかからないことで、努力ができるもの。それが勉強だったのだ。

だが、その健気な場面でさえ、登場するのは彼一人。誰もいない。

彼の記憶には、自分以外誰もいないのだ。

彼の目からは涙がこぼれた。

小さい声で「畜生……！」と呟く。

その声さえ目の前で猛り狂う冷たい鉄の塊の金属音でかき消されてしまう。

「ああ、何も無い人生だったな」

ぶつかる瞬間、彼はこの光景がコマ送りの映像の切れ端のようにつながってゆく感覚を覚えた。まるで自分の周りの空間だけ時間が

緩やかに流れているような、そんな感覚だった。

「もし……！ もし次生まれ変わることができるなら……！ 本当
にほんの少しいいんだ…… 雀の涙程も無くてもいい……！ それ
でもいいから、今よりは希望の持てる人生を——」

トラックは無情にも、殆ど勢いを殺すことができないまま通過し
た。

悲鳴から静寂へと変わる。

目を覆う通行人達は恐る恐る瞼を開く。

しかし彼らは中里翔を見つけることができなかった。

それどころか、道路はタイヤ痕があるだけで、血一滴、布切れ一
枚も落ちていなかったのだ。

翔の顔には何か柔らかいものが当たっていた。とても気持ちがい
い。今までに経験したことのない、まるで天使に包まれているよう
な感覚だった。思わず頬ずりをしてしまう。

「ハッ！ これが俗に言う天国！？」

彼は自分の辛かった過去を振り返り、涙が溢れるような思いでそ
の柔らかいものに顔を擦り付ける。

「な、な、何してんのよ——！！」

急に顔面が腫れ上がるような痛さを覚え、彼女の悲鳴と共に彼の
体は後方に飛ばされる。同時に「この変態！ 変態！」と罵る声。

「突然私の胸に飛びついてくるなんて、いい度胸をしているじゃな
い？」

ぶたれた右頬をさすりながら、我に返る。

「あ、あれ？ 俺、死んだんじゃ——」

見上げると、目の前にはブロンドの美少女。おとぎの国から出てきたような流麗な顔立ち。どこかの王国のお姫様かのような気品を漂わせながらも、16、7歳らしい可愛さも兼ね備えている彼女に、翔は思わず言葉を失ってしまう。

そして、周りからは何故か拍手が聞こえる。

「ソフィー、よくやった!」「うわ、男だ!」等々の歓声のような感想で周りが沸き立てる。翔は辺りを見回すと、彼とその目の前の少女は大勢の人たちに囲まれていたのだ。何が何だかまったく訳がわからない。

「……あんたがパートナー、ねえ」

その優美な少女は彼の手を引き起立させる。

「私の名前はソフィー・ド・モンフォール」

そう告げると何やら不服そうに目を背ける。

先生と見られる人たちに律される。

「あんた、今から私のパートナーになりなさい」

何を言っているのか全くわからない。

ふと空を見上げると、見たこともない巨大生物が空を飛んでいた。彼の幼少期に絵本で見た記憶が正しければ、あれが『ドラゴン』というやつではないだろうか。

彼は意識が遠くなるのを感じた。

強制召喚！（後書き）

ご意見、ご感想などありましたらお気軽にどうぞ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7229x/>

Angel Code

2011年10月19日03時11分発行